

Onawa Jumping Rope Competition

～大縄 ジャンピンググローブ 大会～

最近、ナチレベ小の子どもたちの中で流行っていること。それは、“Jumping Rope (大縄)” なんです。毎休み時間に、大縄(ひもをたくさん編んで作ったもの)を持って運動場で、各々好きな跳び方で跳びます。日本と同じく、歌に合わせて跳んだり、複数名で跳んだり、一人ずつ跳ぶのですが跳ぶ回数が徐々に増えていったりと、様々な跳び方があります。



そんな中、3年生から6年生を対象に、子どもたちにナチレベ小学校内で大縄大会を企画すると言ったところみんなとても張り切って、練習し始めました！

<ルール>

- ① 一人ずつ1回跳ぶ(複数名や1人がたくさん跳んでも1回とする)
- ② 3分間にどれだけたくさん跳べるかを競う

そう、日本でもおなじみの“8の字跳び”のルールでとっても簡単！！と日本の皆さんは想像するでしょう。しかし、ウガンダではこれがどれだけ難しいことか、..



まず、縄跳びで順番に並ぶといったことはしません。(日常でもほとんど並んでいるところはありません。) その結果、たくさん子どもたちが押し合いへし合いでたくさん跳ぼうとして1回も跳べないことや、ある跳び方をしようと思っても周りから色々な子どもたちが入ってきて思うように跳べないことがひんばんにあります。

次に、入るタイミングが難しい。先程、書いたようにたくさん子どもたちがかき乱れて跳ぶウガンダ式大縄では、前の人がどれくらい跳んで出て行くのかが不明。そのため、次の人がいつまでも待っていたり、待てなくて入って跳んだりタイミングがみんなバラバラ。しかし、8の字跳びでは、“1人1回跳んで出る”ルールなので、できるだけ多くの方が時間をあけずに回っている縄を跳び続けなければなり

ません。初めは、一人が跳んだ後に1回あけて次の人が入ってきて跳んでいたのですが、徐々にコツを掴んだクラスは、連続でどんどん跳べるようになりました。

最後に、縄を回す人が乱暴！3分間と決めているため、時間を意識する子どもたち。しかし、それゆえ回す人が、焦って残り1分になると超スピードで回し始めます。予想できると思いますが、誰一人その早さについていけず、引っかかってばかりで結局少ししか跳べないという結果に。。。「回す人が上手に回さないと跳ぶ人が引っかかっちゃうよ。」とアドバイスしたところ、跳ぶ人のことを考えて回そうとする姿勢がみられました。

と、苦勞と工夫をしながら3週間程練習して、ついに22日の大縄大会本番！！それぞれのクラスが練習してきた縄と自信を持って、運動場に集結。低学年の部（3年生男女と4年生2クラス）と、高学年の部（5年2クラスと6年1クラス）に分かれて対決。低学年は、やはり力の差が出たのが、4年生2クラスがリード、3年生は惜しくも追いつけず惜敗。高学年は、毎日一生懸命練習していた5年生 East クラスが持ち前のスピードを発揮し、見事勝利！！



低学年		高学年	
1位	4年 West・・・97回	1位	5年 East・・・134回
2位	4年 East・・・93回	2位	6年 West・・・123回
3位	3年 Girls・・・88回	3位	5年 West・・・112回
4位	3年 Boys・・・74回		

閉会式では、勝者の歓喜の雄叫びと同時に、悔しそうな顔もたくさんみられました。ウガンダではありがちの、勝負は“勝ちか負けか”に重きがおかれる。もちろん、結果は大切！だって、それが実力だもんね。でも、私はそれだけじゃなくて練習してきた過程を大切に、そしてルールに則って正々堂々と闘った子どもたちこそ、褒めるべきだと思い、その気持ちを伝えました。仲間と力を合わせて一つのことを成し遂げる、簡単なようでなかなか難しいことに、子どもたちは挑戦しました。今回の「大縄大会」、子どもたちにとってとても実りの多いものになったと思ったので、第二回を4月に行う予定です。それを伝えるとみんな、さらに俄然やる気になって時間を見つけては大縄を跳んでいます！日本の小学校の子どもたちと対決したいんだとか。。

“One for All, All for One！（一人がみんなのために、みんなが一人のために！）”

大観衆の中全力を出し切りました！



低学年の部優勝4年 West！最高の笑顔！



高学年および総合優勝5年 East！

